

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)松原天美SC新築工事	階数	地上5F
建設地	大阪府松原市天美東3丁目	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	41,096 人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年8月1日
敷地面積	67,212 ㎡	作成者	(株)竹中工務店 山田義浩
建築面積	26,006 ㎡	確認日	2019年8月1日
延床面積	117,132 ㎡	確認者	(株)竹中工務店 山田義浩



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

100% 77% 77% 77%

0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源・マテリアル: 4
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>本計画は、「地球環境保全、働きやすさの向上」をコンセプトに、次世代型大型複合商業施設を計画している。建設に関わる環境負荷を最小化させる為、電力負荷平準化、デマンドレスポンス、井水利用等でインフラ負荷の低減を図る。特に、生ごみを資源と捉えバイオガスシステムを採用することで、再生エネルギーを活用するとともに、生ごみ処理に関わる地域の負荷を低減する。また防災拠点としての一時避難機能を有する施設とする。</p>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>照明は人感センサー・照度センサーを活用し電力負荷の低減を図る。F☆☆☆☆の建材を採用して空気質汚染回避に配慮。CO₂制御を導入し、外気処理負荷の低減を図る。喫煙室を設置し、副流煙による非喫煙者の健康に配慮する。</p>	<p>円滑化誘導基準を満たし基準以上の身障者トイレを設置し人に優しい施設づくりに配慮。コンセプトに合わせた内装計画をおこなう。コージェネレーションによる熱源二重化、上水・井水の二重化で信頼性の高い設備設計とする。</p>	<p>周辺の街並みと調和した建築計画とし、緑化を壁面と駐車場に大規模に配置し敷地内にみどりを取り入れた計画とする。臭気を伴う排気は屋上に設置し給気とのショートサーキットを防止する。近隣組合と協議して設計に反映する。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>次世代BEMSを導入することで、電力負荷平準化、デマンドレスポンス、高度な最適化運転と、モニタリングの充実をはかる。また、経年劣化によるシステム効率の低下に追従したシステムを構築する。ナイトバージを導入し自然エネルギーの利用に配慮。</p>	<p>井水を活用し、上水インフラの負荷を低減を図るとともに、災害時の非常用水としても活用する。井水は、上水、雑用水として活用できるようにろ過処理する。また、飲食店舗の厨芥を資源と捉え、バイオガスシステムを採用することにより、貴重な資源の再エネルギー化を図る。</p>	<p>建物利用者の利便性に配慮し、駐車場台数と駐輪場台数の十分な配置計画をおこなう。廃棄物処理はバイオガスシステムにより、汚泥の搬出を抑制し、厨芥の排出を抑制する。有価物の計画的な回収を行う。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0069

Osakafu・新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)松原天美SC新築工事							
	建設地	大阪府松原市天美東3丁目							
	用途/区分	物販店 飲食店 集会所 病院 学校(小中高) 工場							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						S		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						4		
③	建物の断熱性						5		
④	エネルギー削減						4		
⑤	自然エネルギー直接利用						○		
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	バイオガス	○
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	○	温熱差熱利用	○

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.5	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.6	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入	コージェネレーション	非常用発電+コージェネレーションで熱源二重化
	井水利用	上水インフラの低減を図り、災害時の非常用水にも活用
	BELS	電力負荷平準化、デマンドレスポンス、最適化運転、モニタリング充実
	厨房除外	バイオガス+厨房除害で産廃物と下水インフラ負荷を低減
特に配慮した事項	「地球環境保全、働きやすさの向上」をコンセプトに次世代型大型複合商業施設を計画。環境負荷を最小化させる為、電力負荷平準化、デマンドレスポンス、井水利用等でインフラ負荷を低減。バイオガスシステムにより再生エネルギーを活用し、生ごみ処理に関する地域負荷を低減。	